

## モンゴル高原における大気放射量の推定

## The Estimation of Downward Longwave Radiation in the Mongolian Plateau

狗巻 準治 [1]; # 開発 一郎 [2]; 杉田 倫明 [3]

Junji Inumaki[1]; # Ichiro Kaihotsu[2]; Michiaki Sugita[3]

[1] 広大・院・総合; [2] 広大院総科研環境自然; [3] 筑波大・生命環境・地球環境

[1] Sougokagaku, Hiroshima Univ.; [2] Natural Environ. Sci., Hiroshima Univ.; [3] Graduate School of Life & Environ. Sci., Univ. Tsukuba

寒冷半乾燥地域であるモンゴル高原の大気放射の実態・特性の把握のために、長期の短波放射モニタリングをモンゴル高原の試験地で実施している。この短波放射量と気温から大気放射量を簡便に推定する代表的な二つの式（近藤式、SB式）の寒冷半乾燥地域への適用性をモンゴル高原試験地のデータを用いて議論し、実際に大気放射量を求めて2003年から3年間の実態について考察した。その結果、両式とも寒冷半乾燥地域であるモンゴル高原への適用性は非常に高かった。さらにより簡便であるSB式を用いて2003年-2005年のモンゴル高原試験地での大気放射量を推定した結果、降水の影響を受けてわずかながら年毎に最高値が増加して最低値が減少し、2003年の大気放射の最高と最低の出現の期間は他の年よりも相対的にかなり短いことが明らかとなった。